



## 【TOPICS】

- 2010 実践教育研究発表会 北海道大会特集
  - ・ 2010 実践教育研究発表会開催校挨拶・・・1
  - ・ 大会概要と日程・・・2
  - ・ 特別講演・・・4
  - ・ 各系企画・・・5
  - ・ 交通アクセス・・・10

## 【2010 実践教育研究発表会 北海道大会特集】

### 2010 実践教育研究発表会開催校挨拶



北海道職業能力開発大学校  
校長 日野 光元

実践教育研究発表の全国大会が、初めて北の大地、ここ銭函の北海道職業能力開発大学校で開催されることになり、大勢の会員の皆様が全国から参加して頂いたことを職員一同大変嬉しく思っております。今回の大会テーマは、未来に向けての「ものづくり・ひとりづくり」です。この発表会の場で、皆様が日頃取り組んで来られている、職業訓練技法や教材開発などの実践教育訓練に関する活動成果を発表され、意見交換をし、会員同士お互いに大いに研鑽して頂きたいと存じます。

大会開催に当たって、一般講演、ポスターセッションの会場を設けたのは勿論ですが、前旭山動物園長小菅正夫氏を講師に迎え、「旭山動物園再生への挑戦」と題する特別講演を用意しました。その他に、地元小樽が誇る民芸企業・ものづくり大学校の皆様のご協力による、ガラス工芸作りやオルゴール作りなどが体験できる「ものづくり工房」、地元企業の皆様の展示や説明コーナーも設けました。大会の成功をお祈りしております。



北海道職業能力開発大学校

【2010 実践教育研究発表会 北海道大会特集】

大会概要と日程

2010実践教育研究発表会 北海道大会

9月30日(木)～10月2日(土)

大会テーマ

未来に向けての「ものづくり・ひとづくり」

実践教育研究発表会は、主に職業能力開発に携わる者が実践教育訓練に関する活動（教育訓練技法や教材開発等）の成果を発表し、情報交換や相互研鑽を図ることによって指導者としての資質の向上を支援し、職業能力開発分野のいっそうの発展に寄与することを目的としています。



会場：北海道職業能力開発大学校(小樽市)

主催：(社) 実践教育訓練研究協会

共催：北海道職業能力開発大学校

後援：厚生労働省、独立行政法人 雇用・能力開発機構

小樽市、小樽商工会議所、小樽市銭函工業協同組合



じっせんくん

【2010 実践教育研究発表会 北海道大会特集】

<b>9月30日(木)</b> 受付11:30～ ( A棟1階 玄関)				
<b>機械系</b>	<b>電気・電子・情報系</b>	<b>建築・デザイン系</b>	<b>能力開発分科会</b>	
機械系企画Ⅰ 13:30～15:30 B会場(A110教室)	電気・電子・情報系一般講演 13:30～14:50	建築・デザイン系企画Ⅰ 14:00～15:50 I会場(A304教室)	能力開発分科会一般講演 13:00～14:40	
機械系企画Ⅱ 16:00～16:50 B会場(A110教室)	電気・電子・情報系企画Ⅰ 15:00～16:50 C会場(A201教室)	建築・デザイン系企画Ⅱ 16:00～16:50 I会場(A304教室)	能力開発分科会一般講演 14:50～15:50	
機械系専門部総会 17:00～17:30 B会場(A110教室)	電気・電子・情報系専門部総会 17:00～17:30 C会場(A201教室)	建築・デザイン系専門部総会 17:00～17:30 I会場(A304教室)		
<b>10月1日(金)</b>				
ポスターセッション 9:00～9:40 ( 体育館 )	電気・電子・情報系一般講演 9:00～10:00	建築・デザイン系一般講演 9:00～11:20	企業展示 ものづくり工房  9:00 ～ 17:00  ( 体育館 )	
機械系一般講演 9:50～12:00	電気・電子・情報系企画Ⅱ 10:20～12:00 C会場(A201教室)	ポスターセッション 11:20～12:00 ( 体育館 )		
(社)実践教育訓練研究協会 総会 13:00～14:00 (N101教室)				
企業展示・ものづくり工房 14:00 ～ 15:00 (体育館)				
特別講演 「旭山動物園 再生への挑戦」 講演者: 旭山動物園 前園長 小菅正夫氏 15:30 ～ 17:00 (N101 教室)				
全体交流会 18:30 ～ 20:30 [ ニュー三幸 (小樽市街)]				
<b>10月2日(土)</b>				
機械系一般講演 8:40～12:00	電気・電子・情報系一般講演 9:00～11:10	建築・デザイン系一般講演 9:00～10:00	能力開発分科会一般講演 9:00～10:40	企業展示 ものづくり工房 9:00～12:00 ( 体育館 )
	ポスターセッション 11:20～12:00 ( 体育館 )	建築・デザイン系一般講演 10:20～12:00	能力開発分科会一般講演 10:50～11:50	

【2010 実践教育研究発表会 北海道大会特集】

特別講演

特別企画

特別講演 『旭山動物園 再生への挑戦』

講師： 小菅正夫 氏（前旭山動物園 園長）

今、社会状況の変化などから組織を大きく変えなければならない、再構築しなければならないところがたくさん出てきています。これは決して他人事ではなく、私たちの職場でもありうることです。

今回の特別講演の講師である小菅正夫氏は、旭川市の旭山動物園の再生に取り組み、みごと復活させました。講演から事業や組織を再生するためにはどのようなことが必要なのか、何が大切かなどについて学びたいと思います。

【日時】 平成 22 年 10 月 1 日（金） 15：30 ～ 17：00

15：30 ～ 16：30 講演  
16：30 ～ 17：00 質疑応答

【場所】 北海道職業能力開発大学校 N101 教室



【講演要旨】

“動物園は希少動物の最後の砦となるべきである”との信念で、ホッキョクグマやアムールヒョウなどの北方系希少種や地元の猛禽類の繁殖に取り組んできた。そんな意気込みを吹き飛ばす事態が訪れた。入園者数の減少による閉園が取りざたされるようになったのだ。我々飼育係が、理想とする動物園作りのために、一人一人が自分のやり方で、野生動物の魅力が来園者に直接届くような活動を始めた。その中から生まれたのが「行動展示」という新たな価値であった。信念と危機感の共有が旭山動物園を再生させた。



【2010 実践教育研究発表会 北海道大会特集】

各系企画

●機械系

・機械系企画Ⅰ シンポジウム 『 能開大卒業生と今後の学生教育 』

昨今、学生が実社会に出てどうなっているのか、社会人、職業人としての状況が問われています。それは、卒業生の実社会での状況を教育現場が把握しているか、また実社会の状況に対して教育現場がどのように対応しているかということが問われていることでもあります。このような状況を鑑み、卒業生が働く企業の方々から直接話を聞き、意見交換の中からどのような教育訓練をすべきかを考えてみたいと思います。

【シンポジウムの論点】

- ①現在の能開大教育に足りないもの  
(カリキュラム、徳育、基礎学力等について)
- ②卒業生や在学生への要望や期待すること
- ③全国の能開大の先生方に対する注文やアドバイス

・機械系企画Ⅱ 講演 『 小樽でのモノづくり 』

小樽で代表的な工芸であるガラスづくりを行い、職人さんの育成にも力を注いでいる深川硝子工芸さん、またオルゴールのピン打ち機を製造し、独自のオルゴールづくりしている海鳴楼さんを講師に迎え、その技術や技能、またそれぞれモノづくりにかける思いを語っていただきたいと思います。尚、深川硝子工芸さん、海鳴楼さんには発表会期間中、ものづくり工房（ものづくり体験コーナー）も行っていただきます。

【講演者】

株式会社 深川硝子工芸 代表取締役  
出口 新一郎 氏

オルゴール海鳴楼 代表取締役  
塚原 ふさ子 氏



●電気・電子・情報系

・電気・電子・情報系企画Ⅰ 実装技術研究分科会セッション

－実装関連技術の教育訓練のさらなる充実に向けて－

1. 技術講演 (テーマ) EMC 設計のためのスキルとアプリケーションの必要性について  
 講師 株式会社 図研 営業本部 iNARTE EMC エンジニア  
 濱田 麻衣子

2. 現状報告と討論

能開施設における実装技術関連の教育訓練の現状と、今後、さらに充実していくためにはどうすればよいか等について報告と討論をしたいと思います。多くの皆さんの参加をお願いします。

- 【パネリスト】 ・ 関東職業能力開発大学校 陣内 望  
 ・ 東北職業能力開発大学校 中澤 直樹  
 ・ 株式会社 図研営業本部 濱田 麻衣子  
 【進行】 ・ 北陸職業能力開発大学校 滝本 貢悦

・電気・電子・情報系企画Ⅱ シンポジウム

『電気・電子・情報系に求められる職業教育訓練の現状と課題』

－若年者の人材育成に関する現状と課題について－

【趣旨】

近年、「組み込み系エンジニア」に代表されるようなハード・ソフトウェアについて非常に幅広い知識が要求される職種の人材ニーズが高まっている。これらの人材ニーズの変化に伴い、電気・電子・情報系の職業教育訓練に求められる素養も大きな変革期にある。そこで、このシンポジウムでは、本系に求められる職業教育訓練の現状と課題、とくに新規学校卒業者を含めた若年者の人材育成に関する現状と課題について考える。

パネリストには、全国の中でも就職環境が依然として厳しい北海道や青森県の公共職業能力開発施設の職業訓練指導員やそれらを指導する立場の行政、さらに公共職業能力開発施設からの採用実績のある企業を迎え、若年者の人材育成に関する取組み事例を交えながら発表して頂く。そして、今後の本系に求められる職業教育訓練の姿について討議を深める。

【パネリスト】

- ・ 北海道庁 北海道経済部労働局人材育成課 研究開発グループ 主幹 川原 宏昭氏  
 ・ 北海道障害者職業能力開発校 プログラム設計科 職業訓練専門員 浅理 邦春氏  
 ・ 北海道立旭川高等技術専門学院 電子工学科 職業訓練専門員 高瀬屋 京子氏

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| ・北海道職業能力開発大学校 電気・電子系 講師 | 齊藤 晃一氏 |
| ・青森センター 電気・電子系 講師       | 齊藤 学氏  |
| ・アイフォーコムグループ 代表 CEO     | 加川 広志氏 |

【司会】

- |                             |        |
|-----------------------------|--------|
| ・神奈川センター 電気・電子系 教授          | 菊池 清明氏 |
| ・山形県立産業技術短期大学校 情報制御システム科 教授 | 千秋 広幸氏 |

●建築・デザイン系

・建築・デザイン系企画 I 特別講演 『北海道の住まいの変遷 ―過去から未来へ―』

講師 小林 孝二 Koji Kobayashi 北海道開拓記念館  
学芸部長 博士 (工学)

【主旨】 北海道の住まいの変遷 ―過去から未来へ―

北海道の住まいの特徴の一つは、近世以前から道南地方の一部に定着していた建築文化を含めて、本州以南からもたらされた建築文化による影響が大きかった点である。

薄い板壁や土塗り壁、紙障子や板戸の開口部などに代表される、いわゆる伝統的な日本の建築文化は、東北・北陸地方を中心とする降雪地帯において、積雪に対処するノウハウは蓄積していたものの、北海道の冬季、特に内陸部における厳しい寒冷な気象条件には対応できないものであった。

特に、近代以降、開拓が内陸部へと進展する中で、移住者が郷里から持ち込んだ建築様式には、基本的に入植地の気候風土条件に適合しないものが多かった。

北海道における住宅改良、居住条件改善の歩みは、このような防寒性を欠いた「欠陥住宅」と向き合うことから始まったといえる。

一方で、広大な土地（東北 6 県よりも広い）に散在する集落、地域により大きく異なる気象風土条件や産業基盤と経済力などから、居住者が住まいに求めた条件も一様ではなかった。

多様な条件の下で、結果的に大きな役割を果たしたのが、開拓使による洋風建築技術の導入と行政による普及指導であった。洋風デザイン・技術の普遍的な広がり、漁村のニシン番屋における上げ下げ窓や洋風デザインの採用（旧花田家・小平町、旧田中家・小樽市など）、農村の茅葺農家における上げ下げ窓の採用（旧泉家・栗山町）などに今日も見る事が出来る。

戦後の住宅改良もまた官主導の形で展開する。戦後の住宅政策の目的の一つは戦災者受け入れであり新たな開拓移民対策でもあった。このような背景の中で、先に述べた明治期以来の洋風建築技術の定着過程をたどるように、寒地向の防寒住宅が研究され一般に普及する。

近年建築される住宅は厳冬期でも薄着で過ごすことが出来る程になり、冬季における室温は本州以南の住まいに比べてはるかに高いのではないかともいわれる。北海道における住宅改良の歴史は、防寒性能の向上という室内環境改善の点では一定の水準に到達したとあって良いのかも知



れない。

一方、住文化の面では、ストーブを囲んだ団らんの場の喪失、寒さを利用した貯蔵場所の消失。屋外環境では、北海道における住宅地の特徴といわれてきた比較的ゆとりのある敷地と塀や門構えを飾らない開放的な配置などが、宅地開発の進展の中で失われつつあり、夏場の景観では北海道外と見分けのつかない住宅団地も多くなってきている。これは昭和初期に見られた住まいの間取り・デザインの中央指向と類似する現象といえるのかも知れない。

北海道の住まいは 100 年あまりの短期間に劇的な変化を遂げたが、その過程で失ってきたものもまた多かったのではないかと考えている。

【司会】 北海道職業能力開発大学校・建築科 田畑 雅幸氏

## ・建築・デザイン系企画Ⅱ 討論会 『建築・デザイン系活動の 22 年をふりかえって』

【趣旨】 実践研「建築・デザイン系専門部会」は、1988（昭和 63）年 9 月、『第 1 回実践教育／建築・デザイン系研究発表会』を北九州短大にて開催し、翌 1989（平成元）年、有志により『実践教育／建築・デザイン系研究会』を設立したことに始まる。

以来、22 年間にわたって活動して来たが、20 年の区切りを経た時点で一定の総括を行い、新たな時代にむけた活動を展望すべき時点に来ている。

そこで、当系では、次号（2011 年 9 月号）『実践教育ジャーナル』に、総特集「今後に向けての総括と展望（仮）」を予定していることから、その企画の一端として、北海道大会にて、全員参加形式による討論会を開催する。

これまでをふりかえり明日を展望するために、以下のような切り口が考えられるが、これらの視点を折り込みながら、実りある討論を行いたい。

A. 段階別に振り返る。

- ①1988～立ち上げ期（各系自主活動から三系合同へ）、②1993～軌道期（社団法人化）
- ③1997～発展期（全国的異動と世代交代）

B. 各活動別にふりかえる。

- ①実践教育研究発表会、②実践教育ジャーナル、③テキスト・出版、④ひとづくりフォーラム
- ⑤木造研究部会、⑥RC・S 造研究部会、その他

C. 活動課題別にふりかえる。

- ①活動目標、②会員拡大・サービス、③活動体制、④若手継承、⑤外部連携、⑥情報発信、
- ⑦その他

【コメンテーター】

- ①歴代役員（専門部会長、理事、常任幹事）、②歴代事務局長、③歴代幹事、編集委員、各研究部会長から、④建築・デザイン系会員

【司 会】 磯野重浩氏（系事務局長、九州能開大）、星野政博氏（理事、東北能開大）

【企 画】 秋山恒夫氏（系常任幹事、職業大東京校）



・建築・デザイン系企画Ⅲ エクスカーション案

■Aコース「小樽の街を訪ねて」

○日時：平成22年10月2日（土）13:00～（大学前出発；13:00）

○交通：電車または車にて移動

○見学先：

①旧青山別邸：小樽市祝津3-63（14:00～15:00）（tel：0134-24-0024），¥1,000

②旧日本郵船（株）小樽支店：小樽市色内3丁目7-8（15:30～16:00）

（tel：0134-22-3316）¥300

③金融資料館（日本銀行旧小樽支店）：小樽市色内1丁目11-16（15:30～16:00）（tel：0134-21-1111），

④北一硝子：小樽市堺町7-26（tel：0134-33-1993），→自由行動

⑤小樽運河：小樽市港町（tel：0134-33-2510），→自由行動

○企画担当：田畑雅幸氏（北海道職能大）



■Bコース「北海道開拓の足跡を訪ねて」

○日時：平成22年10月3日（日）8:00～15:00

○交通：マイクロバスにて移動（高速大谷地IC下車、国道12号線約1時間）

○見学先：

①セラミックアートセンター：江別市西野幌114-5（011-385-1004），¥300、9:00～9:30

②北海道開拓記念館（共通チケット：1,000円）開拓村：¥830，記念館：¥500

団体10名以上，（開拓村：¥680，記念館：¥400）10:00～11:00

③北海道開拓の村：11:30～12:30（昼食）

12:30～14:00；小林氏解説，村内54ha：「市街群」「農村群」「漁村群」「山村群」

ホームページ：<http://www.kaitaku.or.jp>

④インディアン水車・千歳サケのふるさと館：千歳市花園2丁目312（tel：0123-42-3001）

15:00～15:30（時間に余裕があれば見学）

⑤新千歳空港着：15:30～16:00

○参加費：3,500円（\*各施設観覧料・マイクロバス代を含む）

○企画担当：田畑雅幸氏（北海道職能大）



■Cコース「北海道に残る古民家の再生現場を訪ねて」

○日時：平成22年10月2日（土）13:00～、

または10月3日（日）9:00～夕方（調整中）

○交通：電車または車にて移動

○見学先：

〈北海道に残る貴重な古建築を再生活用しながら、「モダン・クラシック」スタイルで意欲的活動中の「武部建設」(武部豊樹代表)の多目的ホール、古民家モデル住宅、木造再生現場等を見学〉

①「武部建設」岩見沢事務所（事務所、多目的ホール／結ホール）（岩見沢市5条東18-31、岩見沢IC

より8分)

②「武部建設」本社・三笠事務所（古民家モデル住宅、鉄筋・型枠の加工場、ストックヤード、古材ギャラリー、木工場）（三笠市萱野 219、三笠 IC より3分）

③再生建物・現場見学、他

○企画担当：秋山恒夫氏（職業大東京校）



## 【2010 実践教育研究発表会 北海道大会特集】

### 交通アクセス



-----▶ 徒歩ルート

#### ●交通のご案内

- 電車 JR 銭函駅より徒歩15分  
札幌駅からJRで約55分（銭函駅から徒歩15分含む）  
小樽駅からJRで約45分（銭函駅から徒歩15分含む）
- 自動車 国道5号線 御前水交差点より3分  
札樽自動車道 銭函 I.C より5分

## 編集後記

今回は2010年夏号として、今年度開催される2010実践教育研究発表会 北海道大会の特集を掲載致しました。前旭山動物園長である小菅正夫氏を講師に迎え、「旭山動物園再生への挑戦」と題して開催される特別講演や各系企画が盛りだくさんとなっております。このニュースをご覧になって興味をわいた方は、是非発表会まで足を運んで頂けたらと思います。

次号は、上記発表会報告を中心に掲載予定です。お楽しみに！！

WEBニュース編集事務局では、皆様からの各地のポリテクビジョンや催し物に関する情報をお待ちしております。記事半ページ程度、写真2枚程度を添付していただき、以下のメールアドレスへ直接、もしくは編集事務局まで封書でお送りください。またこちらからも記事のお願いをすることもありますが、そのときにはご協力くださいますようお願いいたします。

例年、この時期になりますと、異動した方もいると思います。勤務先、メールアドレスの変更は、分かり次第、実践教育訓練協会事務局までメールまたはFAXにてお知らせください。



発行責任者：大竹 勉

発行：(社)実践教育訓練研究協会事務局

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-36-203

TEL 042-300-1651 FAX 042-300-1652

<http://www.jissen.or.jp/> E-mail: [jissen@jissen.or.jp](mailto:jissen@jissen.or.jp)

編集責任者：中谷 努

編集事務局：職業能力開発総合大学校

〒252-5196 神奈川県相模原市緑区橋本台 4-1-1

TEL 042-763-9163 FAX 042-763-9168

<http://www.jissen.or.jp/> E-mail: [jissen@jissen.or.jp](mailto:jissen@jissen.or.jp)

広報委員会 Web Jissen News 編集部門：田中義弘・中谷努・御田村真毅

広報委員会 Home Page 編集部門：小玉博史・新島泰宏・有田浩之・永野秀浩

広報委員会 委員長：有田浩之

発行・編集：(社) 実践教育訓練研究協会 広報委員会

JISSEN NEWS 2010 夏(No.168)

---

